



森を伐る

今、森から考える

これからの社会で

私たちは森とともに

どのように生きていくのか？

この講座では森を伐ることから考えます

申込締切
6月25日(月)
必着

京都大学フィールド科学教育研究センター

第22回 公開講座

2012年7月27日(金)～29日(日)

日程 平成24年7月27日(金) 13時～7月29日(日) 12時(2泊3日)
会場 京都大学フィールド科学教育研究センター 芦生研究林(京都府南丹市美山町芦生)

- 地元の人々と京都大学が守ってきた芦生(あしう)研究林では年に1度、夏休みに公開講座を実施しています
- 2泊3日の2日目に、原生的自然林内のなだらかなコースを、大学教員等が解説しながらご案内します
- 初日と3日目にはフィールド科学に関する講義を行い、夜は地鶏やなめこなど地元食材を堪能いただきます



講座の主旨

昨年開催した第21回芦生公開講座では、自然としての森を今一度見直すという意味で『今、森から考える』というメインテーマを掲げ、「森のめぐみ」について学びました。

そこで学んだ森のめぐみにはいろいろなものありましたが、木材資源については、大きく取り上げることができませんでした。そこで、今年の公開講座では、木材資源を利用するためには避けて通れない「森を伐る」ことをテーマに取り上げることになりました。

森の木を伐ることは自然破壊だ、という人がいます。一方で、森は人手をかけて伐って行かないとよい木材がとれないばかりか、荒廃してしまってむしろ環境破壊につながるという人もいます。どちらが正しいかではなく、その両方を考えることが必要だと思います。

今回の講座では、森林資源を有効活用するための最新の森林施業方法や森林資源の流通と地域社会の現状を学びます。あわせて森林施業が森林とその流域におよぼす環境影響にも配慮しながら、「森を伐る」ことの今日的意味、有形無形の森のめぐみについて考えたいと思います。

野外実習では、毎年実施している由良川最上流域の芦生天然生林での樹木植生実習やシカ食害の実態観察に加えて、間伐実験を行っているスギ人工林を視察し、伐った森を間近に体験します。また、伐採作業の実演も計画しています。

最終日には、芦生地域の林業についてその歴史的変遷を交えて学ぶ予定です。これらの講義と実習を通じて、これから森とどのような関わりを持って生きていけばいいのかを考えていただければと思います。

- 日程 平成24年7月27日(金)13時～7月29日(日)12時(2泊3日)
会場 京都大学フィールド科学教育研究センター 芦生研究林(京都府南丹市美山町芦生)
プログラム
- 7/27(金)「芦生研究林の概要」 中西 麻美(フィールド研・助教)
「なぜ森を伐るのかーこれからの社会の中での森とのつきあい方」 長谷川 尚史(フィールド研・准教授・芦生研究林長)
「森を消費するわたしたちー資源利用はどのように変わってきたか」 坂野上 なお(フィールド研・助教)
「森を伐ると環境はどう変わるの？」 徳地 直子(フィールド研・准教授)
「樹木の識別入門」 芦生研究林 技術職員
- 7/28(土)「天然林の観察」午前中は上谷の植生などを観察します。午後は[健脚・木を測る・ぶらつき]の3コースに分かれて歩きます。人工林伐採実験地の視察も行います。
- 7/29(日)「産業遺産を歩こうー原生的な森林に残る人間の軌跡ー」 中島 皇(フィールド研・講師)
- 交通手段 JR園部駅より送迎バス または 自家用車 にて芦生研究林までお出で下さい。
定員 30名(応募者多数の場合は抽選、小学生以下は不可、中学生は保護者同伴)
受講料 8,200円(中高生は4,100円) この他、宿泊費など 約17,000円 が必要です。
申込方法 電子メールまたは往復はがき
住所、氏名、フリガナ、年齢、性別、昼間の連絡先(携帯電話・FAX・Emailなど)、
芦生研究林までの交通手段(送迎バス・自家用車)を明記して下さい。**6月25日(月)必着**
問合先 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学農学研究科等教育・研究協力課研究協力掛
電話 075-753-6411/FAX 075-753-6005/電子メール sympo@adm.kais.kyoto-u.ac.jp

